

平成 28 年 5 月 27 日

## 平成12-17-23年接続産業連関表の公表

- 接続産業連関表は、産業間の取引状況をまとめた産業連関表<sup>(注1)</sup>について、直近年次を基準に、部門の概念・定義・範囲を統一した上で、改めて計数の推計を行って3時点間の時系列比較ができるようにしたもの
- 今回公表の接続産業連関表は平成12-17-23年を対象（平成27年6月16日に公表した平成23年（2011年）産業連関表を基準。10府省庁の共同事業）
- 接続産業連関表により、平成12年から23年にかけての、我が国の産業の市場規模、付加価値、消費・投資・輸出入、産業間の結びつきなどの経済構造の変化が分かります<sup>(注2)</sup>

1 国内生産額が、名目、実質ともに、平成12年から17年にかけて増加した一方、17年から23年にかけては減少

○ 国内生産額（各産業の取引額の総額）の3時点における推移を見ると、名目、実質<sup>(注3)</sup>ともに、平成17年がピークとなっています（表1参照）。

表1 国内生産額の推移

	金額（兆円）		
	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成23年 (2011年)
名目	950.3	967.0	930.5
実質	940.9	972.7	930.5

(注1) 「産業連関表」の概要や構造等については、後記の<参考>を御覧ください。

(注2) 例えば、独立行政法人経済産業研究所では、接続産業連関表を用いて、日本産業生産性（JIP）データベースを作成し、日本の産業構造に関する実証分析を行っています。

(注3) 「名目」は平成12年、17年、23年における各時点の実際の取引額を表しており、「実質」は23年時点の価格を基準に、12年、17年時点の取引額を推計したものを表しています。実質による額を見ることにより、価格変化を除いた経済活動の状況の違いが分かります。

**2 平成12年から23年にかけて、中間投入率が名目では上昇しているものの、実質ではほぼ横ばい。また、サービスの中間投入率が名目、実質ともに上昇**

- 国内生産額<sup>(注4)</sup>に占める原材料等の中間投入額の割合（中間投入率）は、名目では上昇していますが、実質ではほぼ横ばいとなっています（図1参照）。
- 中間投入率の変化について、投入された財・サービス別<sup>(注5)</sup>に見ると、名目ではどちらも中間投入率が上昇していますが、実質では財の中間投入率が低下する一方でサービスの中間投入率は上昇しています。財の名目、実質の傾向の違いは、後述の輸入品の価格上昇の影響もあると考えられ、サービスの傾向は、価格変化を除いても中間投入に係る取引に占めるサービス業の比重が大きくなっている影響が伺えます（図2参照）。

図1 国内生産額に占める中間投入及び粗付加価値の構成比

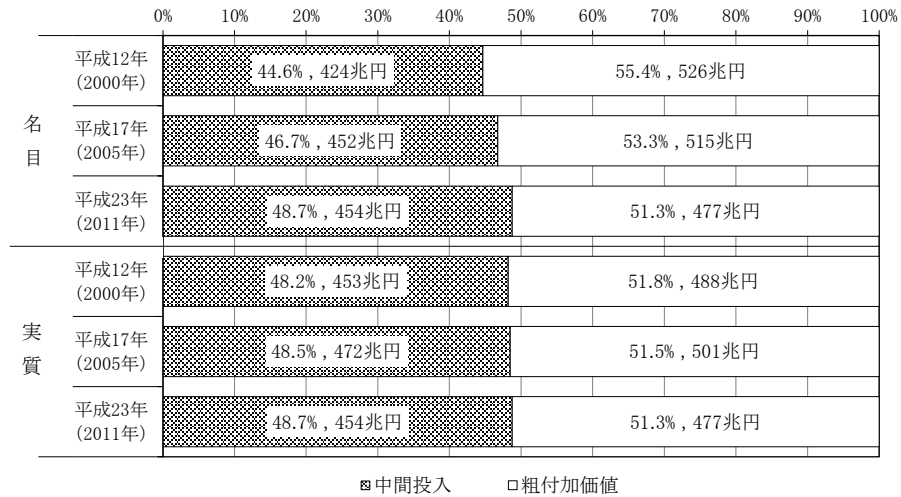
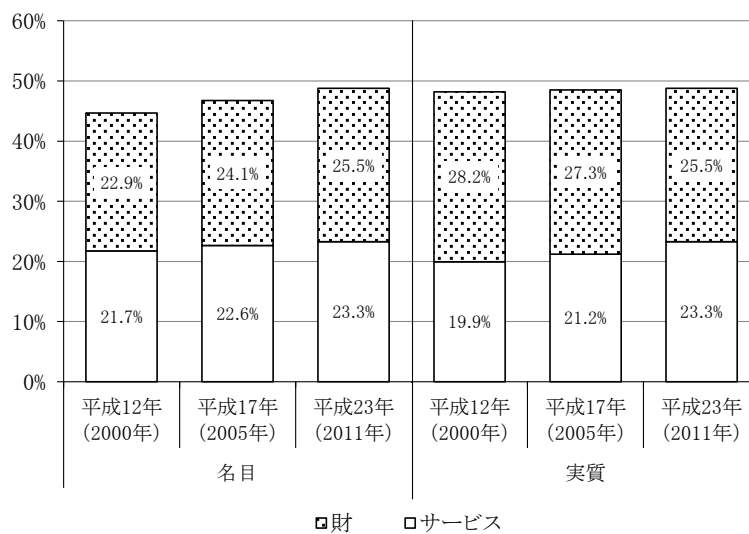


図2 国内生産額に占める財及びサービスの中間投入率



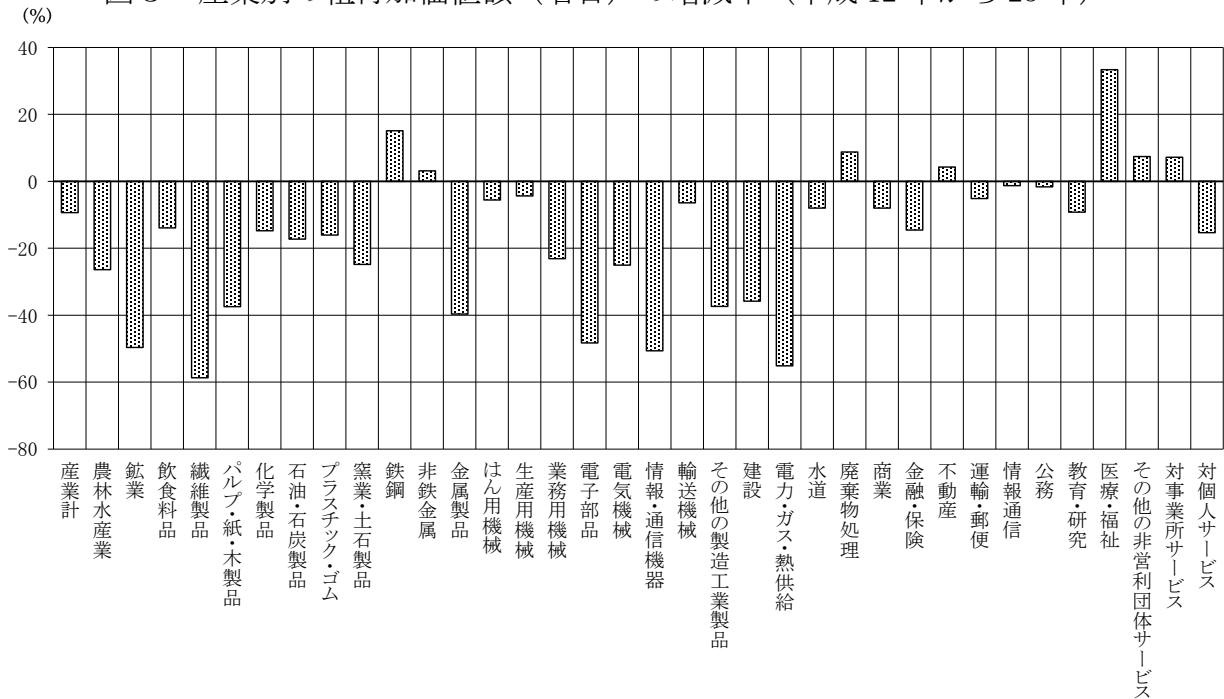
(注4) 国内生産額＝中間投入額＋粗付加価値額。中間投入額は、生産活動に必要な原材料やサービスの購入費用のことをいいます。また、粗付加価値額は、雇用者所得や営業余剰といった、生産活動によって新たに付け加えられた価値のことをいいます。

(注5) ここでは、中間投入のうち、農林水産業、鉱業、製造業及び建設の投入を財の中間投入、それ以外の投入をサービスの中間投入としています。

### 3 平成12年から23年にかけて、多くの産業において、粗付加価値額は減少

- 多くの産業において粗付加価値額は減少していますが、増加している産業も一部見られます（図3参照）。

図3 産業別の粗付加価値額（名目）の増減率（平成12年から23年）



### 4 平成12年と23年の価格水準を比較すると、国内生産品についてはほぼ横ばいである一方、輸入品については上昇

- 平成23年の価格水準を1としたインフレータ<sup>(注6)</sup>の推移から、平成12年と23年を比較すると、産業全体の国内生産品の価格水準は0.99倍とほぼ横ばいである一方で、輸入品については1.37倍に上昇している状況が見られました（表2参照）。
- また、産業別に見ると、国内生産品、輸入品ともに、石油・石炭製品や非鉄金属の価格が大きく上昇している一方、電子部品や情報・通信機器では価格が低下している状況となっています（表2参照）。

表2 インフレータの動向

国内生産品	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	輸入品	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)
産業全体	0.99	1.01	産業全体	1.37	1.14
石油・石炭製品	1.79	1.32	鉱業	2.84	1.63
鉄鋼	1.78	1.29	石油・石炭製品	2.51	1.44
非鉄金属	1.86	1.50	非鉄金属	1.80	1.38
電子部品	0.56	0.77	電子部品	0.44	0.66
情報・通信機器	0.44	0.63	情報・通信機器	0.38	0.63

(注6) インフレータが1より大きい場合は、時間の推移に伴い価格が上昇し、1より小さい場合は、価格が低下していることを意味します。

## 【公表した統計表】

今回公表した統計表は、以下のとおりです。統計表のデータについては、総務省HPで提供しています。

総務省HP : [http://www.soumu.go.jp/toukei\\_toukatsu/data/io/index.htm](http://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/data/io/index.htm)

産業連関表

検索

統計表の名称		基本分類 (510部門 ×389部門)	統合小分類 (184部門)	統合中分類 (105部門)	統合大分類 (37部門)	13部門分類	
①	取引基本表	投入表(名目・実質)	○	○			
		産出表(名目・実質)	○	○			
		生産者価格評価表(投入・産出行列形式)			○	○	○
②	投入係数表(生産者価格評価)			○	○	○	○
③	逆行行列係数表(名目・実質) $[I - (I - \hat{M})A]^{-1}$			○	○	○	○
④	最終需要項目別生産誘発に関する表			○	○	○	○
⑤	最終需要項目別粗付加価値誘発に関する表			○	○	○	○
⑥	最終需要項目別輸入誘発に関する表			○	○	○	○
⑦	輸入係数、輸入品投入係数等			○	○	○	
⑧	部門別インフレーター一覧表		○	○	○	○	○
⑨	国内生産額比較表、輸入額比較表		○	○	○	○	○
付帯表	⑩	雇用表(生産活動部門別従業者内訳表)	○	○	○		
	⑪	雇用マトリックス(生産活動部門別職業別雇用者数表)			○		

## <参考>

### 1 産業連関表とは

- 産業連関表(全国表)は、昭和30年(1955年)を対象にしたもの以降、関係府省庁<sup>(注7)</sup>による共同事業として、おおむね5年ごとに作成しています。最新表は平成23年(2011年)を対象とし、平成27年6月16日に確報を公表しています。
- 産業連関表は、経済構造の把握や経済波及効果の分析を行う際の基礎資料として利用されているとともに、国民経済計算の基準改定時における不可欠な基礎資料としても利用されています。

[経済波及効果分析の例]

- 旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究(観光庁)
- 2020年オリンピック・パラリンピック開催に伴う経済波及効果(東京都)

(注7) 総務省、内閣府、金融庁、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省及び環境省の10府省庁

## 2 産業連関表の構造

○ 「産業連関表」は、国又は地域において一定期間（通常1年間）に行われた財・サービスの生産状況や、産業間の取引状況等を、行列形式でまとめた統計です。各産業が、相互に支え合って社会が成り立っているという実態を、具体的な数値の形で見ることができます。

○ タテ方向（列）の計数を見ると、財・サービスの生産に当たって用いられた原材料等の費用構成を、ヨコ方向（行）の計数を見ると、生産された財・サービスの販売先の内訳を読み取ることができます。

		内生部門					外生部門			国内生産額 A+B-C		
		中間需要					最終需要					
需要部門 (買い手)	供給部門 (売り手)	1	2	3	...	計	消	固	在	輸	輸 入	
		農 林 水 産 業	鉱 業	製 造 業		A	費	定 資 本 形 成	庫 出	B		C
内生部門	1 農林水産業											
	2 鉱業											
	3 製造業											
	...											
	計											
外生部門	雇用者所得											
	営業余剰											
	...											
	計											
	国内生産額											

生産された財・サービスの販路構成(産出)

原材料等の費用構成(投入)

産業連関表では、各部門とも、「A+B-C=D+E」となるように作表しています。

(問い合わせ先)  
 政策統括官(統計基準担当) 付  
 統計審査官室(産業連関表担当)  
 電話: 03-5273-1088  
 F A X: 03-5273-1189  
 E-mail: ioclass@soumu.go.jp